

項目	観点	教科書名		
		新しい国語(2・東書)	ひろがる言葉小学国語[17・教出]	国語(38・光村)
1 学習指導要領の教科の目標を達成するために取り扱う内容の選択について	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を育成するために、どのように配慮されているか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○螺旋的・反復的に「言葉の力」身に付けられるよう構成されていることが特長である。また、表現活動の課題が発展的に設定されているため、学んだことを生かしながら、国語を適切に表現する資質・能力の育成を図ることができる。</li> <li>○6年生の内容で、話し合い活動の具体例の提示では、人物の発言内容を2カ所から3カ所点線として、児童が発言内容を自由に想像できるようにしてある。</li> <li>○振り返りの課題では、「・・・をどのように(どんな)・・・しましたか。」という内容で問いかけ、自分の考えを表現していく内容にしている。</li> <li>○QRコンテンツを使って既習内容や表現・資料など全て確認できるようにし、教科書には当該学年の内容のみとしている。</li> <li>○「言葉相談室」による言語表現について理解を深める単元設定により、文書表現を豊かにできるように配慮してある。</li> <li>○各単元の学習を「見通す・取り組む・振り返る」の3段階で構成し、円滑な表現活動で「話す・聞く」「書く」の学習ができるようにしている。</li> <li>○「言葉の力」において、教材内の関連する文章表現の技法について確認することができる。</li> <li>○巻末の「言葉の広場」に学年によって種類を変えて言葉を提示(4学年は比較・行動・性格・心情、5年生は例示・思考・人物像等)してあり、語彙力の向上に配慮されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生きてはたらく言葉の力を育てる言語活動を開発し、各学年に系統的に位置付けている。また、理解力と表現力を高めるために、教材ごとに重点的に学ぶ事項を設定している。</li> <li>○表現活動や読解活動において、取り組む内容を上側に文章で示し、文章だけでは分かりづらいと思われる内容を下側に図表を使って解説している。</li> <li>○表現に関連するまとめのページや言葉のページ場所を提示している。</li> <li>○6年生の内容で、話し合い活動の具体例の提示では、全て人物の発言内容を完結した内容で提示し、児童が参考にしやすいようにしている。</li> <li>○「書く」の内容では、表現活動で書いた内容に合わせて振り返りの課題を1つ提示し、取り組みやすくしている。</li> <li>○「話す・聞く」や「書く」の学習は、「見通しをもと・学習の進め方・ふり返ろう」で構成し、表現能力の向上に配慮している。</li> <li>○「言葉をふやそう」で、教材内の言葉に関連する言葉を提示し、語彙集めと文作りの活動を通して、語彙力向上を図っている。</li> <li>○「ここが大事」において、教材における表現技法や文章の構成を確認し、表現力の向上に配慮している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○日常生活に必要な国語の特質について理解し、様々な場面で主体的に活用でき、生きてはたらく知識・技能として習得できるよう、教材化や単元配列が工夫されている。また、学習指導要領に示された言語活動例が、低・中・高学年それぞれの段階でもれなく扱えるようにしてある。</li> <li>○前年度に学習した文章表現技法をページ下に提示することで、表現活動においてよりよい内容にできるように配慮してある。</li> <li>○学年における学習内容で、表現等に活用できる内容(文書構成の仕方等)を、学習したページ数も含めて黄色スペースに提示してある。</li> <li>○6年生の内容で、話し合い活動の具体例の提示では、人物の発言内容が結論などを1カ所傍線として、児童が考えやすいようにしてある。</li> <li>○単元末の「ふりかえろう」では、「知る・書く・つなぐ」の3つに分割して、学習活動内容の確認をするように具体的な内容で課題を構成し、提示している。</li> <li>○QRコンテンツによって、実写による話し合い、作者インタビュー、資料などを閲覧することで、より正確な言葉の理解や伝わりやすい話し方等を理解することができるように、各単元ごとにQRコードを配置している。</li> <li>○巻末の「言葉のたからばこ」で、学年の発達段階に合った性格・様態・心情を表す言葉を各学年で提示してあり、語彙の拡張を図ることができる。</li> </ul>
2 内容の程度及び取り扱いについて	主体的・対話的で深い学びの実現のためにどのような工夫が見られるか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「国語の学習の進め方」として、単元毎に「見通す・取り組む・振り返る」という過程が見開きで示されている。どのように学びを進めるのか、子どもが学習の全体像を捉え、主体的に取り組めるよう配慮されている。</li> <li>○単元毎に、育成すべき資質・能力を具体化した「言葉の力」を示しているため、子ども達が何を学ぶのかを意識して学習に取り組むことができる。また、単元の振り返りでは、身につけた力を図解も加えて示していて、子ども達自身が、どんな力が身に付いたのかを自覚することができる。</li> <li>○巻頭にノート作り方が丁寧に示されていることで、子ども達が思考し、学びを深めるためのノート作りの参考となる。</li> <li>○各学年の最初に、「話すこと・聞くこと」の小単元が設けられている。友達との対話を通じて互いの考えを広げたり深めたりする学習が位置付けられていることにより、対話の力を身につける一助となっている。</li> <li>○話し合いによって考えを深めたり、グループで資料作成や発表を行ったりするなど、協同的な学びを学習に取り入れている。また、各単元に、ノートや発言、対話の例が示されているため、子ども達の学習活動上の参考となる。</li> <li>○QRコンテンツには、デジタルノートや資料動画、モデル動画などがあり、子ども達の主体的な学びを支援しやすい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○物語文と説明文教材では、「たしかめよう」「くわしくよもう」「まとめよう」「つたえあおう」として学習の流れが示され、深い学びへと進める例がイメージされている。</li> <li>○身に付けた力を深い学びに近づけるために、他の教材でも活用できる学習のポイントとして、「ここが大事」、「言葉をふやそう」を設定する工夫が見られる。</li> <li>○日常生活や学校生活に関連した題材が設定され、子どもの実生活に結びついた活動になっている。また、目的意識や必然性・必要感を重視した教材が設定されているため、子どもが学習に興味関心がもちやすい。</li> <li>○二次元コードには、写真、動画、資料などがあり、子ども達の主体的な学びを支援しやすい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○対話力を身に付ける「話す・聞く」の活動では、大単元以外にも、より身近に取り組める課題として、「言葉の準備運動」「コラム」「対話の練習」が設けられています。また、子どもの「問い」を引き出し、単元の目標につなげる工夫がなされているため、子どもたちが主体的に取り組むやすく、課題意識・目的意識をもって学習できるよう配慮されている。</li> <li>○各単元に設けられた「問いをもと」によって、子どもの「問い」が引き出され、単元の目標につなげられている。一人一人が、課題意識・目的意識をもって意欲的に学習に取り組むことができるよう配慮されている。</li> <li>○単元の重点箇所では、チェックボックス形式で大事なことがまとめられていたり、文型や進め方などが挙げられていたりする。子どもが、自身で考えるときや、話し合うときの観点到に活用することで、対話や深い学びにつながる配慮がされている。</li> <li>○「ふりかえろう」では、評価に対応した三つの観点で、学習を振り返る事ができる。</li> <li>○QRコードには、動画や教科書の内容と連動した資料などがあり、子どもが主体的に学べるように工夫されている。</li> </ul>
3 内容の配列・分量	教材の配列や分量には、どのような特色があるか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○単元ごとに学習を通じて育成する資質・能力を「言葉の力」として明確化し、6学年を通して段階的・系統的に配列することで、螺旋的・反復的に学習を積み重ねられるように配列されている。</li> <li>○各単元で扱う内容を重点化し、目指す資質・能力を着実に獲得できるように工夫されているとともに、偏りなく育成できるよう、指導計画の見直しを持ちやすい配列になっている。</li> <li>○各領域の単元を「見通す」⇒「取り組む」⇒「振り返る」の課題解決的な3ステップの学習過程で構成し、着実に資質・能力を身に付けられるようになっている。</li> <li>○漢字や語彙・表記、文法など、言葉や文字に関する指導事項を系統的・段階的に取り立て、繰り返し学習することで確実に習得できるように配列してある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○指導内容を螺旋的・反復的に繰り返して学力向上を図った指導ができるように、学年間と学年を通しての系統的な単元構成にしてある。</li> <li>○複数の領域を関連させて効果的に学習を図る「関連単元」と、一つの領域に集中して学習する「基本単元」をバランスよく組み合わせている</li> <li>○教科書の中で紹介する図書数は約540冊(学年平均約90冊)になっている。</li> <li>○2学期制・3学期制のどちらにも対応できるように、単元・教材の配列や領域の配分が考慮されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「言葉による見方・考え方」を育成できるよう、年間の単元配列が工夫されている。</li> <li>○教科書全体を「単元」「小単元」「コラム」「特設単元」で構成し、習得した「知識・技能」を活用して思考・判断・表現を繰り返す中で、資質・能力を身に付けられるように配列されている。</li> <li>○2学期制・3学期制のどちらにも対応できるよう、単元・教材の数・学習する領域のバランスを工夫している。また、学年間で単元配列が大きく異なることがないよう配慮されている。</li> <li>○各学年巻末には、本単元の学習に資するよう、資料となる教材を掲載している。</li> </ul>

項目	観点	教科書名		
		新しい国語(2・東書)	ひろがる言葉小学国語[17・教出]	国語(38・光村)
4 表記・体裁	用語や写真、使用上の便宜等については、どのような工夫が見られるか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 教科書紙面上の二次元コードからアクセスするデジタルコンテンツを豊富に用意しており、授業や家庭学習のあらゆる場面で活用することができるようになっている。</li> <li>○ 特別支援教育の知見を生かして開発された指導法「多層指導モデルMIM」を取り入れている。</li> <li>○ 1・2年では、読みやすさに考慮して、後のまとまりをとらえやすくなるように文節ごとの分かち書きを用い、語のまとまりを意識した適切な位置での改行がなされている。</li> <li>○ 物語・説明文の本文には、5行ごとの行数字にえ、1行ごとに行を示す「・」をつけ、行を見つけたり、指示したりしやすいようになっている。</li> <li>○ 小書きの文字をこれまでより一回り小さくして、読みやすいように工夫してある。</li> <li>○ 特別支援教育に有効な機能が充実した「学習者用デジタル教科書」、また、弱視の児童のための「拡大教科書」を発行する。</li> <li>○ 見やすく、文字の指導に適した教科書体を独自に開発し使用するとともに、読み間違えにくいユニバーサルデザインフォントも使用している。</li> <li>○ 長期の使用や通学時の持ち運びに耐えられるよう、軽量かつ強度に優れた用紙を開発し、使用している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ デジタル機器で表示した際の視認性が向上した、読みやすい、新しいフォントを採用している。</li> <li>○ 2年生の上巻までは、児童が読む際の負担感を除くために、分かち書きで表記している。</li> <li>○ 全学年にわたって、吹き出し内の改行位置を工夫し、多様な特性をもつ児童が、言葉のまとまりとして捉えられるようになっている。</li> <li>○ 文学作品、特に短歌・俳句・詩教材は、原典を尊重し、なるべくそのまま表記している。</li> <li>○ 学習時に参照できる資料等を、ウェブサイトで見られるようにしている。(まなびリンク)</li> <li>○ 紙は軽量ながら裏移りのない再生紙、印刷は大豆油インクを使用している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 教材内容の理解を助け、イメージを豊かに広げられる絵・写真を適所に掲げている。また、内容を解説するための写真や図・グラフを必要な個所に付し、本文理解の助けとなるよう、工夫されている。</li> <li>○ 教科書連動コンテンツ「広がる学び 深まる学び」を設定し、学習の参考になるコンテンツを6学年で200点以上収録している。</li> <li>○ 2年生までは分かち書きを採用し、段階的に通常の書き方に移行できるよう工夫されている。</li> <li>○ 詩歌に関しては、原作のままで掲載している。</li> <li>○ 教科書のために特にデザインした「光村教科書体」を用いている。</li> <li>○ 小さな文字は、見やすさや読みやすさを配慮して作成された「UDフォント」を使用している。</li> <li>○ できるだけ重量が軽く、色の写りが少ない用紙を開発使用している。</li> </ul>